

展覧会 趣旨

この度、フランス、ノルマンディー地方で「林檎の礼拝堂」の再生プロジェクトを実現し、現在は四国の琴平で、「こんぴらさん」の再生プロジェクトに取り組む美術家、田窪恭治（1949年-）の、東京では初めてとなる大規模な個展を開催することになりました。

1968年に多摩美術大学絵画科に入学した田窪は、1970年代前半のパフォーマンスに軸足を置く活動を経て、1980年代半ばまで、廃木等に金箔を施し、それを窓や扉の形に構成した作品を画廊や様々な美術展（1984年ヴェネチア・ビエンナーレ等）で発表していました。

しかし、1987年に再開発の進む都心のごく普通の木造二階建て家屋を梁と柱だけに解体し、床にガラスを張り、その上を歩くプロセスを記録するプロジェクト《絶対現場》を、建築家の鈴木了二、写真家の安齊重男と共に実施した後、バブル期の東京を離れ、1989年からノルマンディー地方に移り住み、廃墟となっていた16世紀のサン・ヴィゴール・ド・ミュール礼拝堂の修復と壁画制作に取り組めます。建物の構造を活かした技法と、林檎という風景に根ざした主題の壁画が完成するまで10年余を要したこのプロジェクトは、住民との協働や、企業と個人のメセナにより実現したもので、作品と享受者、出資者、所有権をめぐる芸術の新しいあり方を示すものとなりました。そして1999年の帰国から現在までは、四国、金刀比羅宮の聖域全体（琴平山）の再生プロジェクトに取り組んでおり、複合的な文化遺産と長期にわたり現代作家が関わり続ける試みとして注目されています。

この20年の再生プロジェクトを通して、田窪は、「自分より長い時間を生きるであろう、特定の現場の風景を表現の対象とした仕事を『風景美術』、作家がいなくなった未来においても生き続ける表現の現場を『風景芸術』と呼び、そのような空間的にも時間的にも開かれた活動を目指すようになりました。

本展は、近年の二つのプロジェクトを、現地で実現したものとは別の、もうひとつの再生として、東京ヴァージョンというかたちで展示し、田窪の現在の活動を紹介すると共に、出発点や転換期の仕事を通して、美術家と社会との関係を問うてきたその活動の展開を辿るものです。

ジャンルや制作地の越境という外への志向と、地域の文化的複合体という境界内への志向との相互作用のなかで展開してきた田窪の軌跡は、今日的な課題への真摯な取り組みと言えるでしょう。この展覧会が、多様な場とかたちで展開する現代の創造のひとつのあり方に触れる契機となることを願っております。

展覧会 見どころ

待望された、東京での個展

1970年代から活躍してきたにも拘わらず、この20年ほどは再生プロジェクトに関わってきたため、近年の仕事が東京で目にする機会は殆どありませんでした。ノルマンディーや琴平など、都市から距離をおく地域社会に移り住み、十年単位でひとつの仕事を実現させ、作品を享受する地元の人との交流を深めながら展開してきた活動の軌跡を紹介します。

もうひとつの再生プロジェクト

「林檎の礼拝堂」のプロジェクトで、現地では実現できなかった敷地の整備プランを、当館のアトリウムに実寸で、東京ヴァージョンとして展示します。また、「琴平山再生プロジェクト」では、自らデザインした新しい茶所（レストランとカフェ）に、磁器板による壁画を手がけましたが、本展では、墨による同スケールの新作壁画を展示します。インスタレーションはいずれも、鉄と鋳物を床に敷き詰めますので、錆色の床を踏みしめたときの独特の感触と音を通して、静かにたちあがる新たな場を堪能いただけます。

現在進行中の仕事

琴平山で2006年から手がけているオイルパステルによる襖絵は、円山応挙と伊藤若冲による襖絵のある二つの書院に挟まれた白書院を飾るものです。本展では田窪による襖絵《ヤブツバキ》を、現地の書院と同じ構造の建具の中に組み立て、椿の自生する庭を視野に入れ構想された書院空間を創ります。また、琴平山の来訪者のために現在構想中の「神椿ブリッジ（仮称）」のプランも紹介します。

絵画の実験

田窪は礼拝堂の壁画に取り組むにあたり、地下水からの湿気や結露を避けるため、石壁の内側に二重壁をつくりさらに鉛を貼り、何層にも重ねた顔料をノミで掻き出すという独自の技法を、探り出しました。久しく封印されていた絵画制作の扉が様々な色の線描の集積によって開かれたのです。また琴平山の緑豊かな山腹の茶所では、光を反射する白い磁器板に青い線描による葉の繁茂する壁画を、有田焼の手法で実現しています。本展を期にノルマンディーのアトリエから里帰りの、壁画の模索過程を証する習作と、近年、有田で手がける磁器タイルによる絵画を展示します。

「風景芸術」まで

大学屋上での石膏によるドローイングや画廊で発表したイベント、過渡期に制作された手型を刻印したレリーフ、そして都市空間の中で進行した《絶対現場 1987》など、制度や社会との関係を模索しながら「風景芸術」に至るまでのプロセスを紹介します。

作家略歴

1949	愛媛県今治市で生まれる
1968	多摩美術大学絵画科入学
1971	同年より73年まで、個展シリーズ「イメージ裁判」を都内の画廊で5回開催
1972	多摩美術大学卒業
1975	第9回パリ・ビエンナーレに参加
1984	個展（フジテレビギャラリー、同画廊では86年、90年、96年にも個展を開催） 第41回ヴェネチア・ビエンナーレに日本代表として参加
1987	《絶対現場 1987》 建築家・鈴木了二、写真家・安齊重男との協働
1989	ロンドンのアルメイダ劇場にて上演のオペラ「ゴーレム」の舞台美術を担当 フランス、ノルマンディー地方ファレーズに移住し、サン・ヴィゴール・ドー・ミュー礼拝堂の再生プロジェクトに着手
1999	礼拝堂再生プロジェクトで「村野藤吾賞」を受賞、帰国
2000	礼拝堂再生プロジェクトに対し、フランス共和国政府より、芸術文化勲章（オフィシエ）を受賞 香川県琴平町に住み、文化顧問として「琴平山再生計画」に着手
2001	個展（愛媛県立美術館）
2004	金刀比羅宮の遷座祭を機に、旧社務所を高橋由一の作品の常設展示室とするなど、金刀比羅宮蔵の美術作品の調査や修復、公開を進めると共に（2008年にはパリ国立ギメ美術館で同宮の名品展「海の聖域展」の総合プロデュースを行う）、2005年から白書院の襖絵の制作に着手、2007年には新茶所のため、磁器による壁画《神椿》を制作すると共に建築デザインを手掛ける



Photo: Keiichi Kawamura

展覧会概要

展覧会名	田窪恭治 風景芸術
会期	2011年2月26日（土）～5月8日（日）
休館日	月曜日（ただし3月21日は開館、翌22日は閉館）
開館時間	10:00～18:00（入場は閉館の30分前まで）
会場	東京都現代美術館 企画展示室 1F、B2
主催	公益財団法人東京都歴史文化財団 東京都現代美術館
特別協力	金刀比羅宮、新日本製鐵株式会社、オーク構造設計 後援 フランス大使館
協賛	清水建設、資生堂
協力	株式会社サカコー、岡山鋳物センター、EPSON、ショウエイ、千曲鋼材株式会社、KANEHON、泉鋼業株式会社、資生堂パーラー、富士写真フィルム株式会社、株式会社エイデン、picassoduo、深川製磁
同時開催	「MOTアニュアル2011」「MOTコレクション」
観覧料	一般1200円（960円） 学生・65歳以上900円（720円） 中高生600円（480円） 小学生以下無料 （ ）内は20名様以上の団体料金、本展のチケットで「MOTコレクション」もご覧いただけます 同時開催の「MOTアニュアル2011」との共通券もございます
関連プログラム	対談 田窪恭治×宮本亜門（演出家）
日時	2011年3月19日（土） 14:00～16:00
会場	田窪恭治展 会場（企画展示室1階、地下2階） *ご入場の際は展覧会チケットをお求め下さい *そのほか、ギャラリー・トークなどのプログラムを予定しています。詳細につきましては、当館ホームページをご参照下さい
展覧会図録	池内 紀氏による特別寄稿や会場写真等を掲載の図録を 2011年3月上旬に刊行の予定です
展覧会スタッフ	学芸員：関 直子、難波祐子 アシスタント：河田亜也子 広報担当：野口 玲子、小原久実子 広報お問い合わせ先：Tel: 03-5245-1134（直通） Fax: 03-5245-1141
お問い合わせ	東京都現代美術館 〒135-0022 東京都江東区三好 4-1-1 電話 03-5777-8600（リハーダイヤル） 03-5245-4111（代表） http://www.mot-art-museum.jp
交通案内	東京メトロ半蔵門線・清澄白河駅B2出口より徒歩9分 都営地下鉄大江戸線・清澄白河駅A3出口より徒歩13分 首都高速「木場」又は「枝川」出口利用

広報用画像



1



2



3



4



5



6



7



8

本展広報用として、8点の
図版がございます。
掲載ご希望の方は別紙 FAX
シートにてご希望の図版番号
をお知らせください。

東京都現代美術館 事業企画課 企画係 広報班行

FAX: 03-5245-1141

展覧会広報用として作品画像 8 点をご用意しております。ご希望の際は下記申込用紙に必要事項をご記入の上、FAX 又は E メールにてお申し込みください。なお、写真の使用に際し、以下の点をご注意ください。

- ① キャプションは作品の下に 作家名、作品名、(制作年)、撮影者等を必ず表記ください。
- ② 作品写真のトリミング、文字のせをすることはできません。

本展記事をご紹介いただく場合には、恐れ入りますが情報確認の為にゲラ刷り、掲載誌 / 紙、DVD、ビデオ、URL 等をお送りください *また、読者・招待者プレゼント用にご招待券をご用意しております。併せてお申し込みください。

雑誌・番組・サイト名

○をおつけください TV ラジオ 雑誌 新聞 フリーペーパー ネット媒体 携帯サイト その他

発売・放送予定日

御社名 ご担当者名

E メールアドレス @

〒
ご住所

電話番号 FAX 番号

図版番号

ご希望の図版番号に☑をおつけください。

- ① 田窪恭治 《多摩美術大学屋上でのイベント》1971 写真：田窪恭治
- ② 田窪恭治 《巨船アルゴ》1983 金箔、蜜蝋、石膏、鉄、木 草月美術館蔵・東京都現代美術館寄託
- ③ 鈴木了二・田窪恭治・安齊重男 《絶対現場 1987》1987 写真：安齊重男
- ④ 田窪恭治 《林檎の礼拝堂》1999 写真：河村圭一 ©Kyoji Takubo 2011
- ⑤ 田窪恭治 《林檎の礼拝堂 習作》1996 顔料、鉛 作家蔵 写真：田窪恭治 ©Kyoji Takubo 2011
- ⑥ 田窪恭治 《みかん》1998 顔料、鉛、板 小田原市蔵 写真：河村圭一 ©Kyoji Takubo 2011
- ⑦ 田窪恭治 《ヤブツバキ》2005 金刀比羅宮白書院襖絵、オイルパステル 写真：河村圭一 ©Kyoji Takubo 2011
- ⑧ 田窪恭治 《神椿》2006 金刀比羅宮新茶所「神椿」壁画、有田焼磁器 写真：河村圭一 ©Kyoji Takubo 2011

プレゼント用招待券をご希望の方は○をおつけください。

5 組 10 名様 / 10 組 20 名様

広報問い合わせ先

東京都現代美術館 事業企画係 広報班

野口：r-noguchi@mot-art.jp 小原：k-ohara@mot-art.jp

TEL: 03-5245-1134 (直通) FAX: 03-5245-1141